

I 学校の概要

学習意欲向上モデル校事業

観音寺市立大野原小学校

◆児童数及び教員数

○児童数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全校
3学級 87名	3学級 75名	3学級 89名	3学級 93名	3学級 90名	3学級 71名	4学級 19名	22学級 524名

○教員数 35名

◆学校の特色

本校は、平成27年に大野原小学校、紀伊小学校、萩原小学校の3校が統合し、今年度で3年目になる。

本校の教育目標は「やさしく かしこく たくましく」である。「人にやさしく」「自分にきびしく」「みんなとなかよく」を子ども像に掲げ、夢を育むあたたかい学校をめざしている。そのために、実践の重点として、「確かな学力の育成」「人権意識を育み 自尊感情を高める学級づくり」「個々の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進」に取り組んでいる。

本校の児童は、与えられた課題に対しては比較的真面目に取り組み、解決しようと努力できる児童が多い。しかし、難しい課題に出会うと、手助けを待ったり、あきらめたりするという受動的な傾向が見られる。自分から、課題を見つけ、追究していくことも苦手である。

II 研究主題等

研究主題 一人一人がいきいきと輝く教育をめざして
一言語活動の充実を通じたユニバーサルデザインの授業づくり

◆研究主題設定の理由

本校はこれまでに、授業の中で言語活動の充実を図るとともに、ユニバーサルデザインの視点を取り入れることで、「分かる楽しさ」「できる喜び」を味わわせ、いきいきと学習する児童を育成しようと取り組んできた。児童にとって分かりやすい授業を行うため、「焦点化」「視覚化」「共有化」を教師が意識することで、基礎・基本の定着が図られてきている。しかし、児童が自ら解決方法を考えて主体的に追究したり、自分の考えをのびのびと表現し、友だちと交流し、深い理解につないだりする意欲に課題がある。

また、学校生活の基盤として、居心地がよく、安心できる環境が必要であることから、人権意識を育み、自尊感情を高める学級・学校づくりを行うことが大切だと考えている。こうした授業づくり、集団づくりを工夫し、改善を図っていくことで、一人一人がいきいきと輝く教育につないでいきたい。

◆研究内容及び方法

<視点1> 一人一人が主体的に取り組む授業づくり

言語活動を効果的に取り入れ、全体や個への指導や支援の方法を工夫することにより、どの子どもにとってもより分かりやすく、より主体的に取り組めるよう授業改善を行う。

- (1) どの子にとっても「分かる」「できる」授業の工夫
 - ①目的意識をもたせるための「つかむ」場の工夫
 - ②自分の考えをもたせるための「考える」場の工夫
 - ③考えを深めるための「学び合う」の場の設定
 - ④達成感を味わい自尊感情を高める「振り返り」の場の工夫
- (2) 基礎となる言葉の力を高める工夫
 - ①考えの道筋が分かるノートづくり
 - ②話し合う力を育てる工夫
 - ③主体的な読書活動

<視点2> 一人一人が安心して楽しく過ごせる集団づくり

学校生活の基盤として、居心地がよく、安心でき、学びやすい環境を整えることにより、人権意識を育むことができ、自尊感情を高める学級・学校づくりを行う。

- (1) 発言や行動のルールづくり
- (2) 人権意識を育み、自尊感情を高める学級集団づくり
 - ①学級全体で行うソーシャルスキルトレーニング
 - ②「ひみつのともだち」「かんしゃをつたえる大作戦！」への取り組み
- (3) 友達とのかかわりを広げる仲間づくり
 - ①全校で取り組むあいさつへの輪
 - ②友達とのかかわりを広げる児童会活動

<視点3> 一人一人の教育的ニーズに応じた支援

特別支援学級や通級指導教室等での個のニーズに応じた個別指導を充実させたり、個のつまずきを把握しチームで支援したりすることによって、個と集団に応じた適切な配慮や支援を行う。

- (1) 個の教育的ニーズに応じた個別指導の充実
 - ①特別支援学級における合理的配慮
 - ②通級指導教室における合理的配慮
- (2) チームによる支援体制の確立

* 日常の授業や校内研修において授業改善に取り組むとともに、学習指導部・生徒指導部からの提案により学校生活全体の中で実践していく。

Ⅲ 成果の評価計画（検証方法）

評価方法と内容

月	方 法	内 容
5	・児童・職員の実態調査	・児童や職員の学習意欲に関するアンケート調査
6	・学校訪問での評価 ・研究授業（6 学年算教科）において指導者からの評価	・授業についての分析と改善 ・授業についての分析と改善
7	・研究授業（2 学年国語科）において指導者からの評価 ・教員による評価	・授業についての分析と改善 ・1 学期の実践の成果と課題、2 学期に向けての改善策
9	・授業参観において学校評議員からの評価	・学習、学校生活の様子等を評価
1 1	・児童、職員による評価	・児童や職員の学習意欲に関するアンケート調査
1 2	・県学習状況調査の評価と分析 ・香川の教育づくり発表会での評価	・学習状況の結果を踏まえた3 学期の学習計画案作成 ・参加者からの意見や感想
2	・児童・職員による評価	・1 年間の成果と課題、次年度に向けての改善策

Ⅳ 研究成果の普及方法

- 学校訪問・研究授業の機会に、ご意見やご感想をいただき、改善を図る。
- 1 2 月 2 7 日（水）に香川の教育づくり発表会において、取り組みの成果を普及するとともに、研究についてのご意見や感想をいただく。